

静岡大学・中日新聞連携講座「くらしをひらく最先端」講座概要

第1回 10/17 (土)

水をめぐる最先端

報告①「水を生き返らせる～アメニティ佐鳴湖プロジェクトの活動とその成果～」

静岡大学工学部教授 戸田三津夫

アメニティ佐鳴湖プロジェクトは「泳げる佐鳴湖を取り戻そう」を合い言葉に、2003年に立ち上がった取り組みです。佐鳴湖がどのようにして汚れたのか、どうすればきれいな湖に再生できるのか、これまで地道な科学的調査によって明らかにしてきました。講座ではその一端を紹介し、佐鳴湖浄化のため一緒に何ができるかを考えます。

報告②「水を活かす～海のしくみと駿河湾深層水～」

静岡大学理学部助教 宗林留美

海には表層の海流だけでなく、表層から深層をめぐるダイナミックな水の動きがあります。海水の質も、表層－中層－深層では水温、微生物数、富栄養性など違ってきます。講座では、地球科学の視点から海のしくみの研究法と中層水・深層水の特質を紹介します。

第2回 11/15 (日)

匠の技を現代に～はままつデジタルマイスター養成プログラムが目指すもの～

静岡大学工学部教授 中村 保

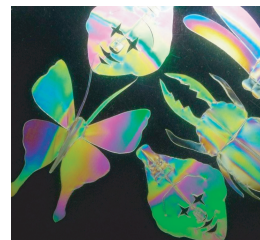
浜松地域は世界有数のものづくりのまちですが、それを支えるのは人材養成です。はままつデジタルマイスター養成プログラムは、デジタル技術を活かしたもののづくりのマイスターを育て、新産業を創出することを目指しています。講座では、デジタル技術を実際に見てもらいながらプログラムの紹介をしていきます。

第3回 12/12 (土)

未来の科学者を育てる～ものづくり理科地域支援ネットワーク・浜松RAIN房の挑戦～

静岡大学工学部教授 藤間信久

「浜松RAIN房」は、自治体・企業・大学等が連携して、市民の皆様とともに地域の理系人材育成活動を発展させていくためのネットワークです。この講演では、浜松RAIN房のコンセプトや活動を紹介いたします。また、浜松RAIN房から生まれた活動の一例として、右の写真のような偏光アートを講演時間中に製作していただきます。



第4回 2010.1/9 (土)

子育てのコツ、教えます～子育て支援コンテンツの構築を目指して～

静岡大学創造科学技術大学院・情報学部教授 竹林洋一

子育ての悩みをネットで支援するウェブサイト「子育て浜松フォーラム」を開設しました (<http://kosodate-forum.jp/mayor.html>)。教育、言語、小児科医などの専門家が、子育てのヒントを映像を生かして回答します。幼児は膨大な常識を使って臨機応変に行動しており、ロボットよりも柔軟です。講演では実映像を使い、感情や心の動きまで、子育てのコツについて考えたいと思います。

第5回 2/13 (土)

未来のテレビはこうなる～画像工学の現在と未来～

報告①「浜松発のテクノロジー～テレビの過去・現在・未来～」

静岡大学電子工学研究所所長 三村秀典

浜松が発祥の地であるテレビジョンの過去、現在、未来について一般市民の方々を対象としてやさしく講演します。高柳健次郎先生による昭和初期のテレビジョンの研究とそのエピソード、現在のテレビジョンとして特にディスプレイの種類と原理それらの長所について、また将来のテレビジョンであるスーパーハイビジョンの内容や立体ディスプレイの原理などについて講演します。

報告②「次世代の産業・医療を支える～浜松オプトロニクスクラスター～」

静岡大学電子工学研究所教授 猪川 洋

浜松・東三河地域では、光電子工学（オプトロニクス）技術を核とした新産業の創成を目指して産官学が連携して研究開発を推進しており、静岡大学も中心的役割を果たしています。本講演ではオプトロニクスクラスター構想の概要を説明し、主だった研究開発成果を紹介します。